

見ようとする意欲と見る能力を格段に高める タブレット PC の可能性

視覚障害リハビリテーション協会 会長
吉野由美子 (よしの ゆみこ)

Profile — 吉野由美子

1968年、東京教育大学付属盲学校高等部卒業。日本福祉大学社会福祉学部卒業後、点字図書館や東京都児童相談センターの相談業務を経て、日本女子大学大学院で社会福祉を専攻。東京都立大学助手、高知女子大学准教授を歴任し、2009年の退職後に現職。著書は『視覚障害者の自立と援助』（単著、一橋出版）など。



ロービジョン（眼鏡で矯正できない視機能の低下があり見えにくい状態）と下肢障害という重複障害のある私は、30年ほど前にふとしたことからスキューバダイビングに出会い、その浮遊感と異次元感覚の魅力にとりつかれてしまい、現在も年に1～2回ダイビングクルーズを楽しんでいる。

そんな私が、8ヵ月ほど前に参加したアンダマン海のクルーズで、タブレット PC を使ったブリーフィングを体験し、改めて、タブレット PC がロービジョン者の見ようとする意欲と見る能力を高める可能性を実感したので、そのことについて記述したい。

ブリーフィングとは、潜るポイントの地形や潮の流れなどの状況を説明して安全なダイビングができるようにすることが目的だが、もう一つ「このポイントで見られる固有の生物」についての説明が重要である。クルージングでダイビングをしようとする人たちの多くが、その地域でしか見られない固有種に出会って写真を撮ることを目的としているからである。

従来は、図鑑で行っていた固有種の説明を、このクルーズではタブレット PC を使って行っていた。先天性白内障で水晶体を摘出している私の目は、細かいものを拡大するレンズがないので、「目の下に青いラインが入って

るのがここにしかない○○ハゼです」というような図鑑を使っての説明では見ることができない。「どうせ見えないし」とろくに説明を聞く気にもなれなかった。ところが、タブレット PC は、取り込んだ写真をその場で簡単に拡大することができ、しかも画面もきれいなので、「このラインね」と私にも見ることができ、「もしかしたらこの固有種、私にも見つけられるかも」と、ダイバー仲間と同じ認識がもてたことで、気分が明るくなり、見ようとする意欲も

高まった。

「私にはどうせ見えっこないから」という思い込みの中で、10年ほど前までは、私は、海の中の小生物を見ようとしなかったし、他のダイバーが、図鑑を引っ張り出しては小生物を「見た？ 私見えなかった残念」などと話していても興味のないふりをしていた。

そんな中で、私とよく一緒に潜ってくれていたダイビングガイドが、珍しい小生物を見つけると必ず私を呼んで見せようとしはじめた。手のひらに載せてみたり、水

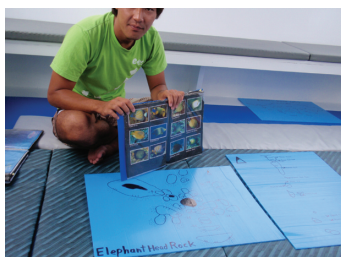


写真1 従来型の図鑑を使っ
てのブリーフィングの様子



写真2 タブレット PC を使っ
たブリーフィング。示しているのはハナヒゲウツボ。

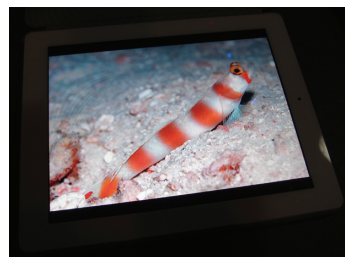


写真3 タブレット PC を使っ
たブリーフィング例。写っているのは「オーロラハゼ全体」。



写真4 タブレット PC でオーロラハゼを拡大し、目の部分の特徴を見ているところ。

中に浮かせてみたり、ビデオに撮って、ダイビング後にそれを再生して説明してくれたり、手間暇かけて私に見せようとした。せっかく見せようとしてくれるので、何となくつきあっていただが、徐々に「見たい」という気持ちが強くなっていった。

2005年頃からだろうが、デジタルカメラが普及しだし、性能はどんどん良くなっていったのに値段は安くなった。それを防水のハウジングに入れて、水中撮影に使うのがダイバーの間でいち早く流行した。先ほどのガイドは、そのデジカメを利用して、水中で私に見せたい物を撮影し、拡大したり動画にしたりして見せ、それから実物を示すということを繰り返してくれた。ダイビング後には、そのデータをPCに移して、プロジェクタで何百倍にも拡大して見ることも増えた。デジカメのフォーカス機能もどんどん良くなってきたので、私もデジカメでの撮影に興味をもつようになった。

小指ぐらいの大きさで保護色の小生物も、プロジェクタで何百倍にも拡大されると、その目の色や

体の模様の美しさが私にも見えたし、オートフォーカス機能を使ってよく見えていない被写体を自分で撮れるようになると、「もっと見たい」「水中で生で見たい」という気持ちがどんどん増してきた。そして、その固有種はどんなところに住んでいるのか、どんな物を食べているのかなどの知識が蓄積され、拡大された鮮明な小生物のイメージが記憶される中で、私の視力は変わらないのに、昔よりずっと水中で小生物を見ることができるようになったことを実感している。

「どうしてもやりたい」ということのために自分から取り組む意欲をもてば、人は予想以上に回復し能力を発揮するというのはリハビリテーション現場での常識である。見るという行為についても、同様なのだろうと私は考えた。それと、見たい物に対する知識やイメージが蓄積すると、視力が変わらなくても、見た物を識別できる力が増すのではないか。だからロービジョンのある人が物をより一層よく見えるようにするためには、見たいという意欲を引き出し、

見ようとする物に対する知識を深め、正しいイメージをもたせることが重要なのではないかと思うようになった。

PCやプロジェクタなどと比べ、タブレットPCは、軽くて携帯に便利。それなのに画面が大きくてきれい、手軽に写真を取り込み、簡単な指の操作で拡大率を変えられることができる。そのうえ、最近ではカメラつきも出てきて、そのカメラの性能もどんどん良くなっている。さすがに防水して水中に持ち込むのは、水の抵抗が大きくて動きにくくなるから無理だと思うけれど、陸上なら見えにくい小さな花や昆虫などを撮って、その場で拡大できる。ネットにつなぐことができれば、画像検索機能を利用して、撮ったものの名前をその場で知ることまでできる。

タブレットPCは、ロービジョンで見えにくい人の見る意欲をかき立て、見る能力を高められる高い可能性を秘めた道具といえるだろう。その可能性は、必ずしもロービジョンの人だけに限られたものではないのかもしれない。



写真5 ガイドがライトで照らしているところを自分のデジカメで撮影し、タブレットPCに取り込んだところ。

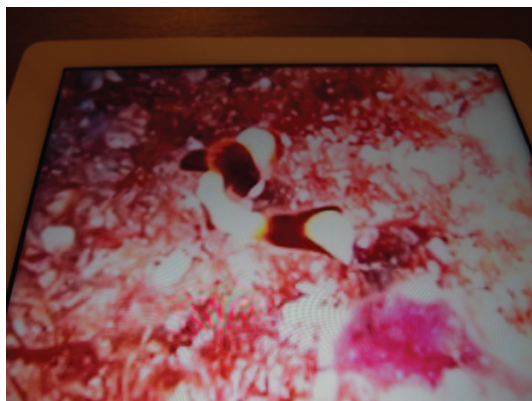


写真6 写真5をタブレットPCで最大限に拡大したところ。ピントが十分に合っていないがアジアコショウダイ幼魚が写っている。